

平成30年度 第2回 函館市地域支え合い推進協議体会議 会議概要

■ 日 時

平成30年11月28日（水） 18時30分～20時00分

■ 場 所

函館市役所8階 第2会議室

■ 議 事

報告

- (1) 住民主体の助け合いが求められている現状について
- (2) 生活支援コーディネーターと協議体の機能と現状について

議事

- (1) 函館市の目指す姿を考える

その他

■ 配付資料

- ・資料1 住民主体の活動と協議体
- ・資料2 地域課題の検討を行う地域ケア会議 第2層生活支援コーディネーターとしての活動（地域包括支援センターたかおか）
- ・資料3 包括的支援事業 地域型ケア会議と第2層生活支援コーディネーターとしての活動（地域包括支援センターよろこび）
- ・資料4 次回スケジュール確認票

■ 出席委員（11名）

阿知波委員，池田委員，川口委員，木村委員，酒井委員，佐々木委員，所委員，能川委員，林（珠）委員，林（優）委員，丸藤委員

■ 出席生活支援コーディネーター（9名）

佐野SC，前田SC，長谷山SC，森SC，小林SC，川村SC，堀内SC，小杉SC，張磨SC

※SC＝生活支援コーディネーターの略

■ 傍 聴（1名）

■ 市職員（事務局）

地域包括ケア推進課 二木主査，古口主任技師，田畑主任主事，関主任主事

■ 会議要旨

二木主査

前回お伝えしたとおり、今回の協議体は、勉強会となることから、事務局が進行を担当する。

本日の流れは、報告（１）「住民主体の助け合いが求められている現状について」、報告（２）「生活支援コーディネーターと協議体の機能との現状について」丸藤委員が説明し、その後地域包括支援センター２センターから活動発表を行う。

残りの時間で、丸藤委員の進行の元『函館市の目指す姿を考える』を題材にグループワークを行う。

こちらは、地域包括支援センターが行う『第２層協議体』に近いイメージとなっているので、自由な発想で意見等を出してほしい。

なお、第２層の生活支援コーディネーターも各委員と一緒にグループワークに参加する。

それでは丸藤委員から、説明をお願いしたい。

丸藤委員

(資料１「住民主体の活動と協議体」に基づき説明)

小林ＳＣ

(資料２「地域課題の検討を行う地域ケア会議 第２層生活支援コーディネーターとしての活動」に基づき説明)

林（珠）委員

(資料３「包括的支援事業 地域型ケア会議と第２層生活支援コーディネーターとしての活動」に基づき説明)

二木主査

報告が終わったので、引続きグループワークに移りたい。進行は丸藤委員をお願いしたい。

丸藤委員

『函館市の目指す姿を考える』を題材に、各班で

【函館市の目指す姿】、

【実現のため「私」や「地域住民」ができること】、

【実現のため、協力連携などが必要になってくること】、

【実現を難しくしていること（今後に向けた課題など）】

について、第２層ＳＣのファシリテーター進行の元、自由に意見交換してほしい。

※グループワークの際、各委員は団体や機関の立場ではなく一個人として考え意見交換

※グループワークで各班から出た意見等は、別添グループワークのとりまとめ資料参照

(グループワーク終了後)

二木主査

その他として事務局から、訪問型サービスＡについて報告する。

田畑主任主事

訪問型サービスA従事者養成事業について、開催するタイミングを計っていたが、介護の仕事への就業を促進するため、訪問型サービスAへの従事予定者の他、介護の仕事に興味・関心がある者、介護事業所への復職を考えている者も対象に広げ、平成31年1月と3月の2回開催することとなったので、報告する。

二木主査

その他何かあるか。

(特に無し)

それでは、これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第2回目の会議を終了する。

〈両館を目指す姿〉

雪が来たら
スノー
(新しい道路)

困った時に
近所や地域
の人に助け
を求めよう

困った人が
来たら
助けよう

車がなにか
便利な物

自由に集えよう
場所(おしゃべり場)
※安全確保の備
以上の施設

世代を問わず
顔みしりか
たす。

老人の若い
人、若い人の
若い人?

子供と高齢者が
一緒に出来る
場所作り

B

〈実現のため、私や「地域住民」ができること〉

お互いの力を
合わせよう

近隣と交流
しよう

両館で
おしゃべり

自分も
外に出よう

外から見下
両館の良さを
発信しよう

起業行

出てこい
人を気にする
声をかける

起業

〈実現のため、協力連携などが必要になること〉

児童館など
で多世代
交流(おしゃべり)

巡回バスを
もと小地域化
(行政からの
支援が必要)

乗り合車
を地域で
走らせよう

40~50代の
方がもっと
地域に
活躍しよう

企業が
「誘致し
よう」

議員

福祉に
一般企業との
関わりを
必要

〈実現を難しくしていること(今後に向けた課題など)〉

若者の
場が少ない

子供の数が
少ない
(時間の使
い方が
かわっている)

交通の便が
集いの場
に行けない

地域の担
手も高齢化
(若者の
参加が
少ない)

外出時の
おしゃべり
の場が
少ない

〈社会市の目指す姿〉

13人世代が 子どもと
一緒に楽しむ
まち！
高齢者が
気軽に話せる

仲間づくり
がてきまつ
↑
安心して

生活に
困ったこと
相談先が
わかる

人の理
解が
いかに
重要か
わかる

何か
新しいこと
の挑戦を
促す

〈実現のため、私や地域住民ができること〉

子供と高齢者
がわかる
場所をつくる

自分の高齢者
に対する
ことめを
止める

自分の世代に
対し、年齢の
ことを教える

気になり
ない人
と
つながる

高めて
もらうこと
には
顔と
土まじり

13人世代に
参加して
ネットワーク

友人の友人
と仲良く
する

地域を
知る

近所の
雪かき
サービス
を知る

地域の
高齢者
を
知る

地域の
教員
と
つながる

道に
あつ
た

あいつ
を
知る

困っている
人を
知る

〈実現のため、協力連携が必要になること〉

他の町会と
交流
する

困った人が
助けを
求める

おじいちゃん
ばあちゃん達
(身近に)

多
人
探
し

お店の
お客さん
と
つながる

人材不足
を
補う

学校
と
つながる

学校に
関心
を
持つ

〈実現を難しくしていること(今後に向けた課題など)〉

自分の
地域
を
知る

外に
出る
機会
を
知る

理解
が
足りない

13人世代
と
つながる

新しい
人
を
知る

2040年
まで
どう
なるか

意識
の
改革

他人
の
事情
を
知る

保
守
的
な
意識

多
人
を
知る

プライド
(団体内外)
を
知る

協力
を
知る

情報
を
知る

意識
の
改革

各
団
体
の
活動